

「福島第一原子力発電所事故後の Public Understanding (科学の公衆理解)
の取り組みに関する専門研究会」
第4回全体会合 議事録

1. 日 時： 令和 2 年 3 月 12 日 (木) 19:00～22:20

2. 場 所： Skype会議

3.出席者： (順不同、敬称略)

委員

吉田 (東北大、主査)、黒田 (福島環境創造センター、幹事)、河野 (原子力機構、幹事)、内藤 (産総研)、山口 (国立保健医療科学院)、野村 (福井工業大学)

常時オブザーバー

安東 (福島のエートス)、後藤 (福島県立医科大学)

オブザーバー

栗原 (量研機構)

4.概 要

- (1) 内部会合(1月30日開催)の議事メモの確認
- (2) 各サブグループからの進捗状況報告
 - ① サブグループ1: Good Practice (優れている点) を抽出するためのクライテリアの設定方法に関する検討
 - ② サブグループ2: 福島における放射線リスクコミュニケーション活動の実践事例: コミュニケーション手段およびソフトスキルの観点からの分析
 - ③ サブグループ3: 福島事故前後の関連学会の社会に向けた活動の変化の検討
- (3) 専研活動まとめの方針 (報告書、論文化)
- (4) 今後の予定及びその他

5. 議 事 :

(1) 内部会合(1月30日開催)の議事メモの確認

内容について確認された後、承認された。本会合における主な合意内容は以下の通り。

【内部会議での合意内容】

・SG1でのクライテリアの高度化については、次のステップでの課題とし、これまでの議論に基づき本専研の活動のまとめを具体化する方向で進める。

・Radioprotection 誌で「福島事故後の合意形成における放射線防護・ステークホルダーの役割(仮)」のSpecial Issueを組む予定。テーマからしてSG2が当てはまるので投稿を予定(企画案が2月まで、原稿は9月まで)。文字数など細かい点はこれから調整。Open Accessにするには費用がかかる。CopyrightについてはSFRPに確認が必要。

(2) 各サブグループの活動状況の報告

① サブグループ1 (SG1)

- ・河野サブグループ1リーダーより、これまでのSG1の活動について説明があった。
- ・クライテリア開発に関しては、ツールキット開発論文を参考にしてはどうかとの意見があった。参考論文及び着眼点は以下の通り。

参考論文：<https://doi.org/10.1080/10810730.2018.1423650>

着眼点：図2にツールキットの開発プロセス、表2に実際にスコア評価した結果が提示されているので参考になるのではないかと。

- ・次のステップへの段取りとしては、研究活動のまとめに向けてSG1内でSkype会議開催を計画し、本会議で方向性を固めていくこととなった。
- ・倫理面に関しては、ICRP Publication 138の議論も踏まえるのが良いのではないかと意見があった。ICRP Publication 138では4つの原則が以下の通り提示されており、放射線防護以外でも幅広く適用されうる原則である。(Prudenceを入れたこと、autonomyを上位概念のdignityにしたことがICRPによる特徴) これも考慮した上で、倫理面におけるクライテリアについて検討を行うこととなった。そのため、栗原先生にICRP Publication 138に関してご講義頂き、SG1メンバーが本内容の理解を深めた上で進めていった方が良いのではないかと意見もあった。河野SG1リーダーがそれに向けた調整を行うこととなった。

1) 善行・無危害

2) Prudent (実践的な知恵・不確実性の中での合理的な意志決定をする知恵、争うのでは

なく調和を尊ぶ) 注意深く検討しているか。

3) 正義

4) 尊厳

② サブグループ2 (SG2)

- ・内藤サブグループ2リーダーより、これまでのSG2の活動について説明があった。
- ・市民参加の事例について情報収集を行っており、その中にはSNS上の活動もレビューしている。今後、他の活動事例も調査を行い、取りまとめを進めていくこととなった。
- ・SNSの市民参加型の事例として、Twitterを用いたICRPの勉強会例も良い検討材料ではないかとの意見があった。それを受け、黒田幹事とも検討を行って、本活動のアウトライン及び概要をまとめて、学会誌の特集号への投稿を行う予定である。(題目は以下の通り。)
Examples of Risk Communication Practices after the Fukushima Accident: Analyses from aspects of communication tools and soft skills
- ・International Journal of Environmental Research and Public Health(後藤先生より補足情報: Health literacy(HL)のspecial issue)が論文を募集中との情報提供があった。SNSでの一方方向でなかったものとしてユニークな事例を分析する。
- ・自治体の地域活動では伊達市の健康推進課の取り組み(地域での放射線学習回数が多い)が特筆されるのではないかとの意見もあり、それも含めてSG2の活動にどう反映させるかを検討することとなった。

③ サブグループ3 (SG3)

- ・吉田主査が(迫田サブグループ3リーダーが欠席のため)、これまでのSG3の活動について説明した。
- ・各学会の福島事故前後の活動を網羅的に収集してきた。特に日本保健物理学会では特徴的な取り組みがなされているにも関わらず、収集し切れていない点もあるため、その情報は確認しているところである。さらに日本放射線安全管理学会、日本原子力学会などの主要学会についても、情報の漏れがないか、SG3メンバーを中心に専門研究会メンバーで確認していくこととなった。
- ・今後、SG3の成果を論文にまとめるにあたり、各学会の活動をどのように分類し、どう評価するかについて、良く検討を行う必要がある。類似した文献がないかよくレビューする必要があるのではとのコメントもあった。

- ・SG3のこれまでの成果をまとめ、IRPA-15（2020年5月）でポスター発表を予定していたが、IRPA-15がコロナウイルス感染症の影響により延期されることとなったため、発表も延期となった。

(3) 専研活動まとめの方針（報告書、論文化）

- ・1月30日の全体会合でも報告した通り、SG1、SG2、SG3を論文化し、それをベースとして本専門研究会の報告書をまとめることとなる。各サブグループはこれまでの活動の成果を整理し、適切なジャーナルへの投稿に向けて作業を進めることとなった。
- ・論文作成にあたり、今後別途会合を開いて論文執筆の方向性を確認してはどうかとの意見もあった。

(4) 今後の予定及びその他

- ・専門研究会の活動は3月31日で終了となるが、論文及び報告書の作成が完了するまでは別途継続していく必要がある。それを受け、専門研究会のコアメンバーを中心として来年度も引き続き、報告書及び論文の作成に向けて協力するメンバーを河野幹事の方でまとめて整理することとなった。

以上